第5号

発行平成31年2月

在岩层原地产生活动

発行:瀬谷区在宅医療相談室

「〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸1-36-1 ☎ 045-520-3122



4月22日より、瀬谷区医師会在宅部門とともに、瀬谷区在宅医療相談室も移転となります。

新住所 〒246-0021

-0021 横浜市瀬谷区一ツ橋489-46

雷話045(520)3122

平成30年度 活動報告

ごあいさつ

8月25日(土)12:00~16:00 市民啓発講演会 テーマ「認知症のケアを考える」 一部:上映会「ケアニン」 二部:パネルディスカッション「瀬谷区のケアニンと語る」



瀬谷区公会堂で、映画上映会を開催。瀬谷ケアマネット、主マネ会共催参加者171名 認知症高齢者をめぐり、若い介護タッフや家族が成長する姿に心揺さぶられた。小規模多機能事業所での看取りまでを描いており、よく取材された質の良い映画であった。会場のあちこちからすすり泣き

が聞こえ、「もっとたくさんの人に見せて!」と言う声をたくさん頂いた。瀬谷メンタルクリニック院長の松本先生はじめ瀬谷区ケアニン代表の本音トークも好評であった。

9月14日(金)19:00~20:45 平成30年度第1回区レベルケア会議 テーマ「地域で孤立している方々へのアプローチの仕方について」

瀬谷区役所・主マネ会共催。孤立し、介護を拒む人たち、周囲の心配と本人たちの価値観は大きく離れている。そんな状況の中でどうアプローチし、どこまで見守るのか?この地域の介護・医療関係者とのグループディスカッションが行われた。また、昨年より課題の見守りツールについても意見が多く出された。

9月25日(火)16:00~17:00 在宅医療相談室事例検討会 テーマ「生活保護適応にならない生活困窮者への支援を考える」



参加者17名 瀬谷区医師会館2階会議室にて開催 サブタイトル「~生活困窮者が治療を諦めない為に、私たちはどう動くか~」 年金があるにもかかわらず、度重なる入院や、金銭管理のずさんさから明日の食料も買えない状況の困窮家庭を事例に、医師、在宅担当者、区役所、包括、ケアマネジャーとの検討が行われた。ギリギリのところで生活の立て直しが可能となったが、それまでの問題点が浮き彫りにされ、翻弄されるケアマネの現状に医師の立場から

制度への課題として苦言が呈された。また、生活支援コーディネーターの業務や、フードバンクなどの利用方法も知ることが出来た。

11月24日(土) 15:00~18:00 瀬谷区訪問看護連絡会共催 参加者36名 場所:二俣川実践教育センター。癌研有明病院より、リンパドレナージのセラピストに来ていただ

き、実践的なリンパ浮腫のケアについて、講義と実習をお願いした。区内訪問看護師と西部病

平成最後の年となりました。あっという間の30年だった気がします。昭和がレトロと呼ばれるよ

うになり、平成もやがて遠い昔となっていくのでしょうね。思えば介護保険制度が始まったのが平成12年、今ではすっかり介護保険制度を中心に高齢者の支援が行われるようになりました。やがて包括的ケアステムやら、2025年問題やらアドバンスケアプランニングだなどと聞きなれない言葉と共に、新たな課題が叫ばれるようになりました。でも、どんな難しい言葉より、

基本は一人一人の思いやる気持ちであり、みんなで助け合うというつながりなのだと感じて

います。平成31年がどんな年号になるのかはまだ分かりませんが、この地域がこの先もずっと

最後まで暮らせる住みやすい地域であることを願い、在宅医療相談室では、地域連携や在宅

現場スタッフのスキルアップ、区民への啓もう活動等に貢献していきたいと思います。

院ホームケア看護師が参加し、目からうろこの実技を習得した。

12月3日(月)14:00から15:00 在宅医療相談室事例検討会 テーマ「ネグレクトリスクの高い親子への支援 倫理的検討を通してし

精神疾患を持つ家庭への支援は常に難しく、在宅の現場では多くの支援のハードルとなっている。要支援者のみならず介護者側の家族も精神疾患を抱える場合、この地域で出来る支援は何か、現在の状況を倫理的な観点からも分析しながら、今何が出来るかを検討した。 医師、行政、地域で支える事業所スタッフなど多職種11人で検討した。

12月6日(木)18:30~20:30 第16回瀬谷区医療福祉セミナー

医療倫理講演会・倫理的事例検討会 共催:瀬谷区訪問看護ステーション連絡会(12事業所) 瀬谷ケアマネット、瀬谷区福祉保健センター高齢・障害支援課、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院総合相談部、在宅医療相談室 参加者72名

テーマ「医療倫理の基礎を学び、事例検討を実践する」

一部 「臨床倫理の基礎」 東海大学医学部基礎診療学系医療倫理学 竹下 啓先生

二部 事例検討の実践 「サービス介入を拒否する患者」

事例検討の際のツールとして、医療倫理の4原則を踏まえ4分割シートを活用して、課題を整理し、現場のもやもやを解決しようという手法を学んだ。講義では医療倫理の考え方を具体例で示し、川崎協同病院事件などの解説も聴きながら、基礎的な学習を行った。その後の事例検討はグループワークにより事例の分析を行った。











あく手の会では、最後に 全員で握手

あくしゅの会 活動報告 平成28年度に発足し、少人数の有志とともに始めたあく手の会。介護者の支援を目的に、一 人で抱え込まない介護を目標に少しずつ仲間を増やしながら活動をしている。平成29年度は、介護者の会を2回行った。平成3 0年度は、一回目の遺族会を開催した。2年以内にご家族を亡くされた方で、医療機関やどこで亡くなったかは問わない。名称 を「あく手の会 詩音(しおん)」とした。シオンの花言葉は「追憶」「遠くにある人を思う。」「君を忘れない」。一回目なので少人 数での開催とした。また、心理カウンセラー・音楽セラピストの遠藤亜希子氏をお招きして、喪失についてのお話を聞き、遠藤氏 のウクレレ演奏で「川の流れのように」をみんなで合唱した。「泣くつもりはなかったのに・・。」「同じ思いの方と話せてよかっ た。」などの言葉を聴けた。また、ご自分もお母さまを亡くされたものの、「自分は出来る事をすべてやった。悔いはない。しかし 少しでも地域の方の役に立ちたい。」と言って参加された方もいた。その時、山形出身の方が多かったこともあり、「芋煮会をや りたいね。」という話が盛り上がった。この話を受けて、11月22日にあく手の会主催の「芋煮会」が開かれた。芋煮会は、今まで 参加された介護者の会の方、詩音参加者の方、新たにその後ご家族を亡くされた方や介護中の方も参加された。医師会からは ひらの内科クリニック院長の平野先生や、心理カウンセラーの遠藤氏が出席。区からは包括支援担当推進係長、二ツ橋第二地 域ケアプラザから井上主任ケアマネジャーも顔を見せてくださった。皆、泣いたり笑ったり、とても和やかに芋煮やおにぎりを たべ、それぞれの思いを語られた。そして、再びウクレレを伴奏に「もみじ」「見上げてごらん夜の星を」などを合唱した。「また 次も来たい。」「この会が楽しみ」と言って頂けた。今後人数が増えることが予測され、会を何回かに分けることも検討中だが、

Akushu

平成30年度活動予定

2月20日(水)他職連携会議(三師会員、ケアマネジャー対象) 「三師会とケアマネジャーとの交流会」

<多職種連携>パネルディスカッション

瀬谷ケアマネット・主マネ会・在宅医療相談室共催 2月21日(木) 「在宅医療における救急要請とは」

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター 救急部長・救命救急センター長 古谷 良輔先生

場所:泉区文化センター テアトルフォンテホール(介護・医療従事者向け)

主催 横浜市介護支援専門員連絡協議会西部ブロック 在宅医療相談室(泉区・旭区・瀬谷区・戸塚区・保土ヶ谷区)

3月12日(火) 区レベルケア会議

「地域で孤立している方へのアプローチについて」(仮)

瀬谷区高齢障害支援課・主マネ会・瀬谷区在宅医療相談室

19:00 瀬谷区役所5回会議室A・Bにて

2015年1月に開設された瀬谷区在宅医療相談室。あっという間に3年が経ちました。在宅医療拠点も18 区全区に配置され、各区で特色のある拠点活動を行っています。瀬谷区の医療拠点も、瀬谷区在宅医 療相談室の名称で、少しづつ周知されるようになり、横浜市内外の病院連携室からのご相談や、地域 のケアマネさんや訪問看護ステーションからもご相談頂けるようになりました。

瀬谷区では、病院やケアマネなどの専門職の為のプロショップとして始まりましたが、最近では一般 区民の方からのご相談も増えています。また、多職種連携会議を2回、区民向け講演会を1回、医師向 け講習会を1回、事例検討会を10回行うことが義務付けられていますが、現在ではそれを上回る活動 を行っています。今後も、地域で在宅医療にかかわるスタッフのスキルアップや、区民への啓発、多職 種連携の強化のための企画運営を地域の仲間と共に行っていきたいと思います。

また相談の内容としては、地域の医療機関や往診医の紹介、在宅サービスの紹介をはじめ、退院調整 のお手伝い、困難な相談に対しても、包括やケアマネジャーと同行訪問してアセスメントを行い、必要 な医療機関に繋げたり、入院への支援を行ったりもしています。必要であれば面談のうえ行政やサー ビスに連携することも多くあります。また、対策を検討するカンファレンスに同席することもあります。 医療か福祉か?在宅か病院か?どうしたらよいか迷ったときでも、ぜひご相談ください。

相談内容の傾向や課題から、毎年講演会や事例検討会のテーマも決め、この地域に必要な情報提供 を行っていきたいと思います。

瀬谷区在宅医療相談室 大嶽 朋子

介護職向け

††あのつぼ 介護する中で、よく心配されるのは誤臙性肺炎ですよね。誤臙性肺炎っていうと、食べ物にむせて げほげほしていたら熱が出て、病院に行ったら肺炎でした。っていう話が多く聞かれますが、実は誤嚥するのは食べ物だけじゃなくて、 日々の唾液や嘔吐後の胃液の誤嚥などによる化学性肺炎も多いのが実情です。また、一口に肺炎と言っても細菌性肺炎やウィルス性 肺炎、否定形性肺炎や間質性肺炎などたくさんの種類があります。ちなみに肺炎の予防注射は肺炎球菌に対しての予防です。

☆護者と遺族へ向けての支援を続けたいと、スタッフー度改めて心に誓った会であった。





瀬谷 森に浮かぶ月

お手伝い下さった参加者

- の方も・・